

海洋レジャー施設内運動量の可視化を応用したサービスモデルの研究開発

○ 函師 里佳 荒川 雅志 [琉球大学大学院観光科学研究科]

金城 直樹 森 敦子 [株式会社カリユシ・カンナタラソラグーナ]

上間 英樹 玉城 佳奈 [株式会社沖縄海洋工機開発]

キーワード：タラソセラピー(海洋療法)、消費カロリー、ヘルスツーリズム、次世代ヘルスケア

海洋レジャーレクリエーションの健康効果について、癒しリラクゼーション効果、運動療法的効果の基礎研究はみられるなか、海健康利用法であるタラソセラピーの認知度は3割以下であることが明らかになっている。海健康効果を適切に伝えることで利用意向が高まることも報告され、機能的価値を付与した実商品化へ向けにはその「可視化」が課題と考えられた。そこで、沖縄本島北部に位置する海洋レジャーレクリエーション施設でありアジア最大級の海洋療法施設での健康サービス研究開発として、1)健康効果の可視化を活用したサービスモデルの開発、2)世界初の海水運動活動量・消費カロリー測定器の研究開発、3)活動量・消費カロリー測定器の測定精度の信頼性、健康効果の検証に取り組んでいる。こうしたシステム開発に加え施設利用者へのアンケート調査を実施し、モニタリングシステムの満足度および要改善点を抽出した。

本研究は平成28年度沖縄県ライフスタイルイノベーション創出推進事業の研究開発費を得て実施するものである。

コンテンツツーリズムの聖地と名勝指定に関する研究

○古澤 大輔 [東京農業大学 地域環境科学部 造園科学科]、

栗田 和弥 [東京農業大学 地域環境科学部 造園科学科]

近年、コンテンツツーリズムが注目を集めてきており、その一例として、ファンがアニメーション作品のコンテンツに興味を抱いて、その舞台を巡る「聖地巡礼」がある。本論では、旧来の詩歌に詠まれたことが一要因として選定されてきた名勝について、今後コンテンツの聖地が、名勝に指定されうる可能性について研究を行った。具体的には、アニメの聖地に焦点を当てた。また、名勝の指定基準としての「自然的なもの」の調査を行い、風致景観が優秀で名所的・学術的価値が高い聖地の映る、自然との関わり合いのあるアニメを研究対象とする。また、アニメは芸術的価値・長期的価値のある作品を選定し、研究対象であるアニメを『新世紀エヴァンゲリオン』(以下、エヴァ)とし、その聖地である神奈川県箱根町を対象地域として検証を試みた。研究方法は、名勝と既存の芸術作品やアニメの聖地との関わり合い、エヴァに登場する景観の調査と分析を行った。名勝指定ではその要件として、美しさの成り立ちを客観的に把握するとともに、広く人々に認知され親しまれる起源となった作品の存否と自然観・風景観、その醸成・普及に係る文化的背景等を説明することが求められており、エヴァの作品性や芸術性から名勝指定の可能性を検討した。